

先生各位

新規検査項目のご案内

謹啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、平素はひとかたならぬお引き立てを賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、このたび新たに下記項目の受託を開始することになりましたのでご案内申し上げます。
今後とも変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

謹白

記

《受託開始日》 令和4年7月25日(月) 受付分より

《検査要項》

検査項目名称	sFlt-1/PIGF 比	
検査コード	2784 2785 (sFlt-1 結果値用) / 2786 (PIGF 結果値用)	
JLAC10	4Z335-0000-023-919-02	
TFAコード	17810000	
診療行為コード	160227250	
検体量	血清 0.9mL	
保存・容器	冷蔵・A1→A2	
実施料(判断区分)	340点(免疫)	
所要日数	4～11日	
検査方法	sFlt-1/PIGF 比：計算法	sFlt-1、PIGF：ECLIA 法
基準値	sFlt-1/PIGF 比：38.00 以下	sFlt-1、PIGF：設定なし
単位	sFlt-1/PIGF 比：なし	sFlt-1、PIGF：pg/mL
備考	ビオチンを1日5mg以上投与している患者からの採血は、投与後少なくとも8時間以上経過してから実施	
妊娠高血圧腎症(PE)発症予測のカットオフ値(試薬添付文書より)	sFlt-1/PIGF 比 \leq 38.00：1週間以内のPEの非発症予測 sFlt-1/PIGF 比 $>$ 38.00：4週間以内のPEの発症予測	
実施施設	ビー・エム・エル	

保険収載名称：sFlt-1/PIGF 比

保 険 注 釈:ア 血清を検体とし、ECLIA 法により可溶性 fms 様チロシンキナーゼ 1(sFlt-1)及び胎盤増殖因子(PIGF)を測定し、sFlt-1/PIGF 比を算出した場合に算定する。

イ 本検査は、妊娠 18 週から 36 週未満の妊娠高血圧腎症が疑われる妊婦であって、以下のリスク因子のうちいずれか 1 つを有するものに対して実施した場合に、原則として一連の妊娠につき 1 回に限り算定できる。なお、リスク因子を 2 つ以上有する場合は、原則として当該点数は算定できない。

(イ) 収縮期血圧が 130mmHg 以上又は拡張期血圧 80mmHg 以上

(ロ) 蛋白尿

(ハ) 妊娠高血圧腎症を疑う臨床症状又は検査所見

(ニ) 子宮内胎児発育遅延

(ホ) 子宮内胎児発育遅延を疑う検査所見

ウ 本検査を算定する場合は、イのリスク因子のいずれに該当するかを診療報酬明細書の摘要欄に記載する。また、イの(ハ)又は(ホ)に該当する場合は、その医学的根拠を併せて記載する。なお、医学的な必要性から、リスク因子を 2 つ以上有する妊婦において算定する場合、又は一連の妊婦につき 2 回以上算定する場合は、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

《 解 説 》

妊娠高血圧腎症 (preeclampsia : PE) は、高血圧及び蛋白尿/臓器障害を伴う妊娠疾患で、重篤な合併症を引き起こすことがあるため、早期に医療介入し発症や病態の悪化を抑制することが求められます。

近年の研究結果から、胎盤形成に関わる血管新生因子 PIGF (placental growth factor : 胎盤増殖因子) および、その阻害因子 sFlt-1 (soluble fms-like tyrosine kinase-1 : 可溶性 fms 様チロシンキナーゼ-1) は、PE の病態形成に関与していることが明らかになっています。

また、PE を発症する妊婦は、発症前に血清中の sFlt-1 の PIGF に対する比率が上昇することから、「sFlt-1/PIGF 比」が PE の発症を予測する指標として注目されています。